

# 芝国際、三田国際、広尾合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

小学1年生の夏から3年生の学年末まで、親の海外赴任に帯同し、米国で生活していました。

帰国後

は、英語力を維持することを目的に国内のインターナショナルスクールに通い、本人の意向も踏まえたう

えで、国際系の中学校を受験することにしました。

## ・現地での学習で苦労したこと・うまくいったこと

米国では現地校に通ったため、赴任当初は英語面で多少の苦労がありましたが、3歳上の兄と比べる

と、比較的スムーズにキャッチアップできていたように思います。日本語の学習は週末の補習校のみでしたが、家庭では日本語で会話をしていたため、日常生活で大きく困ることはありませんでした。また、日本から日本語の漫画（科学や歴史）、本、ドリルを取り寄せて、必要最低限の読書や自宅学習は行っていました。

## ・帰国後の学習で苦労したこと・うまくいったこと

帰国後、4年生の夏から ena に通い始めました。6年生で東京校に移る前提で、当初は自宅近くの ena（主に国公立受験向け）に通っていました。5年生になると指導がやや厳しくなったようで、本人が勉強のスタイルや雰囲気合わないと感じ、通塾を嫌がるようになったため、5年生の初めに東京校へ切り替えました。

東京校では帰国生が多いこともあり、環境に馴染みやすかったようで、その後は通塾を嫌がることはなくなりました。ena 東京校では主に算数と国語の授業を受講していましたが、本人は面接対策の授業が最も役立ったと言っていました。特に6年生以降は、テスト結果などをタイムリーに先生から共有いただけたため、本人の状況を把握しやすく、安心して見守ることができました。

## ・学校選びのポイント

兄弟が三田国際に通っており、学校生活に満足していたため、三田国際および同様の雰囲気やカリキュラムを持つ学校を中心に検討しました。無理なく受験準備を進められるよう、必要となる学習内容に共通点があるかどうかを確認しながら志望校を絞りました。

最終的には、将来、国内の理系の大学への進学を視野に入れ、カリキュラム的に無理なく進められそうかという点も重視して、学校やコースの優先順位を決めました。本人なりに納得して志望順位を考えていたように思います。

## ・これから受験される生徒さんの保護者様へのアドバイス

帰国子女受験は、学校ごとに試験科目や内容に特徴があるため、志望校をある程度早めに決めることで、学習計画も立てやすくなると感じました。

我が家では、英検や TOEFL iBT のスコアにより当日の英語試験が免除される学校を志望していたため、まずはその基準を満たすことを優先しました。5年生で英検準1級を取得し、6年生

の夏休み前に TOEFL iBT で 90 点を超えたことで、6 年生の夏以降の学習は算数と国語に絞ることができました。英語免除のない学校が受験校に含めなかったので、無理のないペースで準備を進めることができたと振り返っています。

結果的に国語・算数の 2 教科受験に対応できるようになったため、受験校の選択肢が狭まったという印象はありませんでした。

- 志望校合格の瞬間の気持ち

本人が結果に満足し、素直に喜んでいる姿を見て、この選択をして良かったと感じました。また、6 年生になってからは塾で友達ができ、通塾そのものを楽しんでいたことも印象的でした。受験期間中も友人同士で励まし合う様子を見て、ena 東京校でお世話になれて本当に良かったと思いました。

# 市川、かえつ有明、広尾小石川合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

ニューヨーク駐在中に、補習校の代わりとして年長の終わりから C' ena に通い出しました。そのまま継続して通塾する中で、小学校四年生になり自然な流れで中学受験に挑戦する方向となりました。

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

苦労したこと

現地校の学習と日本の勉強の両立することでした。

うまくいったこと

幼少期から海外で生活していましたが、低学年の頃から日本語学習をきちんと続けていたため、毎日の学習習慣が身につきました。また地域の図書館では日本語の本が充実していたので、とにかく毎日色々なジャンルのたくさんの本を借りてきて読ませていました。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

帰国後から受験までの期間が4ヶ月と短かったため、学習面というよりも新しい環境になれることにやや戸惑いはありました。一方で、使用しているテキストは一緒なので、学習内容にはすんなりと入ることができました。

## ・海外からのiBT受講の活用方法

海外間で移動があり、次に引越した国では ena がなかったので、引き続きニューヨーク校でオンライン受講していました。オンライン受講なので通塾時間が取られず、塾が開始される直前まで時間を有効に使えることが良かったです。

## ・学校選びのポイント

学校選びがもっとも苦戦しました。本人の意向と親の意向を汲み取り、本人が1番興味がありそうな学校を選びました。

子どもが重視したポイント

- ・サイエンスに力を入れていること
- ・英語以外の科目は日本語での授業されていること
- ・共学であること
- ・興味ある部活があること

親が重視したポイント

- ・英語の取り出し授業があること
- ・復学制度が整っていること（再び駐在になることを踏まえて）
- ・進学実績
- ・学習面でのサポート体制（補講、夏期講習など）

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

家族一丸となって協力しながら取り組むことが何より大切だと感じました。

特に、夫婦で役割を分担し、同じ方向を向いて支えることが、子どもにとって大きな安心につながると思います。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

ネットで合格を確認しましたが、「あ、受かっている」と、とても冷静に合格を受け止めていました。もともと合格の可能性が高いと判定されていた学校だったため、驚きはありませんでしたが、ほっと安堵した気持ちになりました。また、比較的序盤の試験だったこともあり、これで受験が終わってしまうのだと思うと、少し寂しさも感じました。

一方で本人は、「もう勉強しなくていいんだ」という喜びと解放感でいっぱいだったようです。

# 広尾、広尾小石川、三田国際合格

息子が中学受験を決めたきっかけは、帰国後に転入した小学校がクラスの半分は私立中学に行くという学校だったからでした。

当たり前のように周りの子供達が中学受験の塾に通う中で、5年の初めから日能研に通い始めました。4科目の勉強をする中で、英語の維持の難しさを知り、5年の夏休みから ena 国際部に移り、本格的に帰国子女入試を目指す事になりました。

台湾のインターナショナルスクールだったため、他の生徒さん達ほど英語が得意ではなかったため、英語の偏差値を上げることには本当に本人も苦労したと思います。

そんな中でも自分の強みである、算数と国語に関しては、本当によく頑張ったと思います。付きっきりで算数を見てくれた主人の存在も大きかったと思います。

受験開始当初、立て続けに3校不合格となった時は、本当に辛かったですが、塾の先生から電話をいただき、私も諦めないでいこうと思えました。

先生方の励ましが本人が最後まで頑張る原動力になったと言っておりました。また、全く諦めずに第一志望の合格をもらうまで折れずに勉強を続けた息子のことは本当に尊敬します。

私からアドバイスできることはあまりありませんが、帰国子女入試は情報を入手することもすごく大事だと思うので、説明会は幅広く参加した方がいいと思いますし、子どもの適性を見て、親の方から学校を提案してあげるのも大切だと思いました。

本人はとにかく過去問を何回も解いたことが良かったと言っておりました。

# 開智所沢、広尾小石川、山脇合格

- 中学受験を決めたきっかけ

トルコに2年滞在した際、現地の学校（IB校）で受けた、探究活動中心の授業に本人がはまり、中学でも同じような授業を受けたいとの思いと、身に付けた英語力をさらにのばしていきたいと思い、帰国子女受験を決めました。

- 現地生活で気を付けたこと

現地滞在中は、日本語の本を図書館で借りて読み続けたりして、国語力を落とさないことに気をつけました。毎週土曜に通っていた補習校で、漢検を実施していたので、漢検合格を目指して、漢字の勉強もしました。

- 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

5年の夏に帰国し、そこから受験算数と国語の勉強を始めました。算数の定着に苦労しました。もう少し早くから勉強を始めることができたらよかったですと思います。英語については、時間内にエッセイを書き上げるのに苦労しました。

5年の夏休みまでに、基礎力をつけ、直前期は、志望校に特化した勉強に集中するのがよいと思いました。

一般入試と異なり帰国生入試は過去問がないため、どのような対策をしたらよいか親子で不安でした。

そんな中、直前期の ena 東京校の広尾 Math、国語講座は、大変ありがたかったです。本人も、学校の問題傾向がわかり、本番は、安心して受験できたと言っていました。なにより、先生からの励ましも、精神的に嬉しかったようです。

- 学校選びのポイント

インターナショナルコースのある学校を選択しました。

TOEFL 90以上の取得を夏休み中に目指したのがよかったですと思います。

# 広尾、広尾小石川合格

[中学受験を決めたきっかけ]

2歳からインターナショナルスクールに通い、4歳から10歳までをアメリカで過ごした息子は、4年生の夏に帰国し、アメリカ大学への進学を夢見ていたため「広尾学園」を目指し受験勉強をスタートしました。

[現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと]

- ・苦労: 英語が話せる段階での渡米だったため、現地のプリスクール、Kinder、Elementary School とすぐに馴染め、学習面で苦労することはなかったです。一方、日本語の学習は、現地で日本の塾に通っていたものの、漢字の読み書き、文章の理解につまずいていました（ただ英語での勉強に集中していいと思っていたので、それほど気にはかけていませんでした）
- ・上手くいったこと: Kinder から始めた(4年の本帰国まで続けた)アメリカの公文での math、reading(日本の公文の内容とは違う)のおかげ様で、計算力、reading 力がつき、小3で受験した英検準一級もスムーズに合格できました。

[帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと]

- ・苦労したこと: 息子は2歳から英語の環境だった為、帰国後の学習面では、算数、国語、理科、社会、全ての教科の漢字が読めない、問題の意味などもわからなかったため、大変苦労しました。
- ・上手くいったこと: 6年生は国語、算数の勉強に集中してもらいたかったので、帰国後すぐ、4年生の12月から TOEFLibt を受験しました。12月77点、翌年3月92点、5月98点、12月99点。TOEFL99点取得後すぐに、英検一級を受験したのですが、TOEFL 勉強が英検一級合格につながりました。英検一級、TOEFL を早めに取得できたので、6年生は国算に集中して取り組みました。
- ・英検協会では昨年から、小学生で一級を取得した子に「みらい創造賞」が贈られるようになりました。授賞式もあります。息子は2024年度の「みらい創造賞」を受賞したので、この賞の賞状も受験校に提出しました。
- ・苦手分野（算数の図形）を克服するため、新演習の基本問題を繰り返し解き、何度も間違える問題は解き方をノートにまとめました。広尾算数の問題も繰り返し解きました。

[学校選びのポイント]

子どもの留学の可能性、学校の環境を重視しました。得意な英語が受験科目に入っており、配点が高いかどうかも考慮しました。

[これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス]

(A校)

Q、校則は守れますか？

A、はい、守れます、なぜなら校則は生徒を守る為のものだからです。

上記質問は ena さんでの作文・面接のおかげ様で、完璧に答えられました。

(B校)

Q、なぜ学校の成績の集団行動の所に「努力しよう」がついたのですか？

A、男子と女子が揉めてしまった時に、僕がヒートアップしてしまったからだと思います。しかし夏休みに気持ちを切り替え、2学期からの学校生活は、落ち着いて行動するよう心がけています。実際に2学期の学校の成績は改善しました。

息子はB校の質問は想定外だったので、頭が一瞬真っ白になったそうです。しかし、6年の夏休みに今後の受験、学校生活について親子で話しあっていたのと、厳しくも温かいenaさんでの「作文・面接」の授業のお陰様で、すぐに気持ちを切り替え、対応できたと本人が言っていました。

これらの経験から、学校での成績、生活態度、自宅での生活態度など気になる点は、改善するにはどうすればいいのか、これからどうしたいのか、なぜ受験したいのか、など、お子様の良い部分の話を交えながら、しっかり話し合うことで、生活態度を改めるきっかけになり、受験へのモチベーションも変わり、日本語の語彙数も増えるのだと実感しております。

お子様に苦手な科目がある場合は、enaさんでの個別授業をお取りすることをおすすめします。enaさんの個別授業で苦手科目を何度も丁寧に教えて頂いたおかげ様で、試験までに苦手な分野を克服できました。

[志望校合格の瞬間のお気持ち]

・本当に嬉しく、ホッとしました。

# サレジアン国際、昭和学院、広尾小石川合格

## ・国際生枠中学受験を決めたきっかけ

中学受験を決めたきっかけは、子どもが小学校に進学する時に、「この子の将来にとって何が本当に望ましいのか」を考え始めたことでした。その過程で、私たちは次の2つの視点を持つようになりました。

ひとつは、我が子が30代を迎える20年後の社会を見据えたとき、「自分の思考を支える言語」として英語を身につけておくことが、将来にわたって大きな価値を持つと考えたこと。

もうひとつは、大勢の受験生と同じ土俵で4科目受験に挑むには相当な努力が必要であり、本人にとって大きな負担になること。しかも、その先にはさらに英語の学習が待っているという現実がある。

これらを踏まえ、言語習得能力が高い低年齢のうちから学習のエネルギーを英語に振り向け、英語を「思考の言語」として育てていくことが、将来の可能性を広げると判断し、英語で学べる中高一貫校の「国際生枠」での中学受験を選択することにしました。

## ・学習で苦労したこと、うまくいったこと

最も苦労したのは算数でした。英語で学ぶ学校であっても、受験科目に算国を課す学校はありますし、英語のみで受験ができる学校に進学したとしても、算国の基礎学力が不足していれば入学後にハンディになると考えました。このため算数と国語にも取り組みましたが、特に算数はなかなか理解が進まず、模擬試験の偏差値も30~40台で推移し最後まで苦労しました。

算数が伸び悩んだ要因は、「応用問題もある程度解けるようにしたい」という焦りから、基本問題を解くことに十分な時間をかけられなかったことがあると思います。ところが、6年生の後半になって初めて、広尾学園や広尾学園小石川では、基本問題を確実に解ければ合格の可能性を知り、そこからは方針を切り替えて基本問題をノーマスで解ける力をつけることに専念するためenaの「広尾Math」や「基本算数」を選択して繰り返し問題を解かせました

比較的うまくいったこととしては、漢字の学習が挙げられます。enaの「漢字日記」を予習し、書けない漢字があれば時間の許す限り辞書で調べさせ、同音異義語も併せて覚えさせながら、繰り返し書くことで定着を図りました。

また、時間の使い方にも工夫をしました。十分な睡眠時間を取れるように早寝を習慣づけたかったので、その分、放課後の時間をできるだけ有効に使うように心がけました。幸い、学校のすぐそばに図書館があったため、学校の授業が終わるとそのまま図書館に向かい、毎日17時頃までの時間を学習に充てることができました。この習慣は学習のリズムを整えるうえでも非常に有効でした。

## ・学校選びのポイント

5年生の4月から学校説明会に参加し、最終的には11校・延べ24回の説明会に出向きました。

当初はどの学校も魅力的に思えてしまい判断が難しかったのですが、回数を重ねるうちに、次第に比較のポイントが明確になっていきました。以下が、私が最終的に重視した学校選びのポイントです。

## ① 校長先生の姿勢と言葉

- 教育に対するしっかりとした理想像を持ち、自分の言葉でそれを語っているか
- 学校の教育理念を実現するために、陣頭指揮をとれるリーダーであるか

## ② 教育理念の明確さと実質性

- 理念が明確であり、長期的な視点で教育方針や要領が構築されているか
- 理念が単なる建前ではなく、現場の教育活動にどう活かされているか

例えば、ある学校では理念が明治時代の創立時のもので、実際の教育活動にどのように活かされているのか理解ができず、質問しても納得できる明確な答えが得られなかったことがありました

## ③ 教育の特色と実行力

各校が掲げる特色や得意分野が、単なるスローガンにとどまらず、実際の教育活動にどう反映されているか

例えば、ある学校では「美術と技術の授業を英語で実施している」と説明されていましたが、実際に授業を見学すると、英語を使っていたのは先生のみで、生徒同士の会話は日本語が中心という印象を受けました。

## ④ 教職員の人間性と誠実さ

- 個別相談会などで、あえて答えづらい質問をして対応を見ました

例：英語教育を掲げているのに、なぜ算数や理科・社会を英語で行っていないのか

例：教育理念に照らして、現時点での課題や未達成の点は何か

- 回答に対してさらに質問を重ねることで教員の誠実さや柔軟性、人間性が見えてきます
- 突っ込んだ質問をすると悪い印象を持たれ合否に影響するのではと不安もありましたが無用の心配でした

## ⑤ 口コミ情報の活用

トップが急速に共学化・国際化等の学校改革を進める一方で、教職員に混乱が生じているという話もあり、そうしたマイナス面がないかを確認（鵜呑みにせず質問して事実を確認）

## ⑥ 防災面の安全性

首都直下地震に対する学校の防災の取り組みや立地・ハザードマップを確認

## ⑦ 通学時間

通学時間は片道 40 分以内を目安に検討

こうしたポイントで各学校を比較検討しつつ、最終的には本人の実力や学習の進捗状況を踏まえて、国語を除くすべての課目を英語で教える AG コースがあるサレジアン国際学園を主軸校と位置づけました。そして、チャレンジ校を広尾学園および広尾学園小石川とし、より高い目標に向けて準備を進めました。

また、実際に受験するかどうかは別として、サレジアンが不合格だった場合の対応として文大杉並中学校、かえつ有明中学校、三田国際学園中学校にも出願しました。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

私たちの場合は、海外滞在経験がなく、2月一般受験の時期に“国際生枠”で受験する少数派のため、多くの保護者の方々——純粋な帰国生のご家庭——には、必ずしも当てはまらない部分もあるかと思いますが、受験スケジュールの組み立て方や本番に向けた準備、不測の事態への備えといった点について私たちの経験をもとにいくつかの視点を共有させていただきます。

### ① 2月受験のスケジュール設計は「計画的に」

東京都内在住の「国内インターナショナルスクール」のお子さんは、帰国生入試のように12月や1月に幅広く受験することができず、2月の限られた日程内で受験校を組み立てる必要があります。しかも2月1日～5日（場合によっては6日）の間に、受験日や時間が重複する学校が多く、受験機会の選択肢は意外と限られます。そのため、どの学校をどの順番で受けるか、午前・午後の組み合わせをどうするかを、事前によく考えて計画を立てておくことが重要だと感じました。

### ② 初日の午前は「確実に合格できる学校」を設定

2月1日の午前受験は、受験全体の出発点です。ここでいきなりチャレンジ校を設定して不合格になると、子どもが意気消沈して、その後の受験に影響する可能性があると思い、初日は合格の確実性が高い学校を選びました。

### ③ 午前・午後受験の組み合わせ

午前・午後のダブル受験は、子どもにとって体力的な負担が大きく、特に初日は緊張も重なります。さらに、午前の試験後に午後の学校へ移動する必要もありその移動自体も疲労の要因になります。こうした点を踏まえると、午前・午後の連続受験は、ある程度受験に慣れた2日目以降に設定する方が無理がないと感じました。

### ④ 合否に応じた「柔軟なスケジュールリング」

2月1日の合否によって、2日以降の受験校を柔軟に選べるよう、同じ時間帯に複数の学校へ出願しておくという方法もあります。具体例としては、2月2日の午前・午後にそれぞれ2校ずつ出願しておき、1日の合否結果を見て、どちらを受取るか選択できるようにしておく気持ちの切り替えや対応がしやすくなると思います。

### ⑤ 試験慣れのための「事前受験」

千葉県や埼玉県では、国内インターナショナル校出身の子どもでも帰国生入試を受けられる場合があります。本命の2月受験に備えて、事前にこうした学校で受験経験を積ませることは、試験慣れや自信の獲得という意味で有効でした。この時は、お子さんにとって確実に合格できる比較的やさしい学校を選び、「合格体験」を通じて自信を持たせることが大切だと感じました。実際、enaの先生からも強く勧められました。

### ⑥ 午前・午後受験間の「休憩場所の確保」

午前受験後の疲れをしっかりと取れるような休憩場所を、あらかじめ検討しておくことで安心です。自宅に戻るのには時間的ロスが大きいため、午後受験の会場近くで落ち着いて休める場所を見つけておくと、子どもがリフレッシュしやすくなります。

我が家では、赤羽で午後の受験があった際、近くのカプセルホテル（男性限定）の休憩スペースを利用しました。お風呂に入り、リクライニングシートで2時間ほど休んだことで、子どもは疲

れをしっかりと取ることができ、落ち着いて午後の試験に臨めました。他にもショートステイ可能な施設を活用するのも一案だと思います。

## ⑦ 受験期間中のトラブルへの備え

受験期間中は、交通トラブルへの備えも重要です。今回は幸い大雪にはなりませんでしたが、受験後に大雪で交通機関が麻痺した日がありましたし、JRの電気系統トラブルも頻発していたため、代替経路の設定は欠かせません。

具体的には、以下の2つのケースを想定して準備しました

- i 出発前に予定していた路線が使えない場合の代替ルート
- ii 乗車後に途中駅で運行停止になった場合の対応ルート

iiについては途中駅ごとに複数移動手段を整理しておき、万一の際にも冷静に対応できるよう準備しました。

また、その他のトラブルへの備えとして、YouTubeで紹介されていた動画が非常に参考になりました。こうした情報も活用しながら、あらゆるトラブルを想定し準備しておくことが役に立つと思います。

### ・志望校合格の瞬間の気持ち

初日に受験したサレジアン国際学園の合格発表は、その日の夜でした。大丈夫だろうという気持ちはあったものの、「もし落ちていたらどうしよう」という不安もあり、合格を確認した瞬間は本当にほっとしました。これまで努力を重ねてきた息子に、「よく頑張ったね」と声をかけたのを覚えています。

2日に受験した広尾学園小石川の合格発表は、3日午後の別の受験校の待合会場で確認しました。正直、小石川は難しいだろうという思いが強かったため、スマートフォンの画面に「合格」の文字が表示されたときも、最初は信じられず、何かの間違いではないかと思ったほどでした

合格の実感がようやく湧いたのは、後日、広尾学園小石川の受付窓口で正式な合格証を受け取ったときでした。「本当に合格したんだ」と実感が込み上げ、よくぞここまでやり遂げたと息子の努力を心から誇らしく思いそれと同時に、ここまで支えてくださった ena 国際部東京校の先生方への感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

# 市川、開智日本橋、芝国際合格

## ・中学受験を決めたきっかけ

小5の4月に本帰国が決まり、この時期に東京に戻るということもあって、最初は親が誘導するような形で中学受験することを決めました。途中で本人から「地元の公立中には行きたくない。私立中の方が海外に行くチャンスがある」との話があり、中学受験する意思を固めました

## ・現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

中学受験の勉強を始めたのは本帰国後からでした。現地には補習塾、学習塾もありませんでしたので、日本で買ったドリルや通信教育を受講していました。塾のオンライン授業も考えましたが、時差や習い事との時間調整ができず受講できませんでした。現地では、家庭学習のみでしたので、モチベーションがあがらないこと、学習方法の選択肢が限られていたことに苦労しました。逆に学習方法の選択肢が限られていたことで、小1から家庭学習の習慣がついた点は良かったです。

## ・帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

通塾を始めた頃は、学校を含めて環境がガラッと変わった事へのストレスもあり、通塾するのを嫌がったり、集中力がもたなかったり、宿題もとりかかるまでに時間がかかったりと大変でした。6年生になってからは、何とか宿題はやるものの、全て復習まで取り組むことはできず、苦労しました。うまくいったことは、6年生の夏合宿に参加して以降、少しずつですが受験を本気で考えられるようになり、長時間学習することにも慣れ、授業後も塾で自習する等変化がみられたことです。

## ・学校選びのポイント

海外駐在中の方は中々難しいと思いますが、偏差値に関わらずできるだけたくさんの学校説明会、学校見学に参加され、学校の様子を実際に目で見て確認されると良いと思います。親が良いと思った学校を本人が希望しないこともありましたが、1回の学校説明会で「ここに行きたい」と本人から言われたこともありました。

## ・これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

中学受験は親のサポートがかなり必要ということは聞いておりましたが、まさにその通りでした。宿題やスケジュールの管理、勉強のサポート等、本人ももちろん頑張っていますが、親も大変でした。受験期間中はやる気ができるよう、出来るだけ褒めてあげたいと思っていても、宿題もせずゲームをする姿について感情的に怒ってしまうこともありましたが、親子喧嘩も何度もありました。親は受験本番まで心配ばかりでしたが、当の本人はあまり緊張もせず、そこそこ自信もあったようで、今となってはもっと信じてあげれば良かったと思っています。中学受験は親の人間力が試され、子供だけでなく、親も鍛えられる良い機会だと思いました(笑)

これから受験を控えている保護者のみなさま、受験が終わるまで悩みは尽きないと思いますが、お子さまのことを信じて温かく見守ってあげてください。応援しています。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

合格の2文字を見た時は、本当に嬉しかったです。これまで本当によく頑張ったと子供を誇りに思いました。

# かえつ有明、三田国際合格

- 中学受験を決めたきっかけ

公立中学校で英語の授業を受けることに非効率性を感じ、また息子も同じように考えていることが分かったため。英語の取り出し授業がある私立中学を受験することに決めました。

- 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

英語0の状態で行きましたが、学年を一つ落としてGrade1に進学したため、特に勉強で苦労をすることはありませんでした。また、低学年であったことで、言語の壁もあまり感じず、自然と友達と仲良くなることができましたと思います。算数の進度は日本よりもゆっくりしていましたが、日本にいた時から習い続けていたそろばんをオンラインで継続していたため、小4で日本に戻ってからも自然と他のお子さんと合流できたように思います。ただし、筆算の練習をほとんどしていなかったため、筆算で答えを出すことに慣れるのに少し時間がかかりました。現地でもう少し練習させておけば良かったと思っています。

- 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

小4で帰国後に公立小学校で受けた夏休み後の確認テストでは、筆算と漢字が抜けていたため、算数・国語ともに50点ほどしか取れませんでした。ですが、遅れを取っていた分は小学校と塾での学習で少しずつ追いつくことができたので、小4での帰国であればあまり焦る必要はないかもしれません。

- 学校選びのポイント

我が家では出願直前に、息子から志望校を変えたと言われ、見学に行ったことのない学校に出願・進学することになりました。お友達や先輩の話、親の知らないところで情報収集をし、考えを変えている場合があるかもしれません。早めに分れば、英語か国算どちらに力を入れて勉強していくか対応できるかと思いますので、定期的な聞き取りをお勧めしたいと思います。

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

個人差はだいぶあると思いますが、我が家のようになかなか勉強をせずにやきもきすることもあると思います。受験期間は長いので、そんな場合には、あまり期待しすぎず、しかし怠けさせず、適度に見守るのが良いかもしれません。お子さんのケアももちろんですが、親御さんご自身のケアも忘れずにいていただきたいです。素敵な文章が書ければ良かったのですが、国語は苦手なのでこれが限界です。どこか一か所でもどなたかに届けば幸いです。

# かえつ有明合格

## 中学受験を始めたきっかけ

幼稚園年少から小5夏まで海外で、日本のカリキュラムから離れていたため、帰国子女の受け入れ実績のある学校、特に海外の経験も活かした子どものステップアップをサポートしてくれる学校を、子どもの進学先として考えました。

## 現地の学習

現地の学習で苦労したのは、周りが中学受験とは無縁の友達が多かったので、なぜ自分は塾に行き勉強するのかを自分事として理解できていなかったというのが一番大きな苦労でした。我が家は5年生の前半で本帰国でしたので、そのあとに学校見学や文化祭に参加することで行きたい学校を自分の意思で持てたことで受験の対する姿勢が少し変わりましたが、一時帰国などのタイミングで早めに候補の学校見学に参加すると良いです。

あと、我が家はスタートが遅かったですが、やはり海外にいと国語が課題で漢字も実際の学年と同じレベルにはならないので、英語検定だけでなく、漢字検定も出来れば小学校一年生から早い段階でペースメーカーで取り入れると良いと思います。

## 帰国後の学習

帰国後は塾の友達も増え、精神年齢の成長もあると思いますが、帰国前よりは受験勉強に対する姿勢が少し変わったと思います。従来は塾に行くのも嫌がることもあり困りましたが、帰国後はそういったことは流石に少なくなりました。一方で勉強が塾のあとやりっぱなし(分からないまま、復習できてない)になっていることは最後まで悩みました。受験の直前は何を優先すべきか、やった成果物(作文、英語エッセイなど)の確認、漢字のテストなどを親子で一緒に取り組みました。子供の性格にも寄りますが、中学受験は親子で一緒に取り組むかどうかでも大きく変わってくるように思います。

## 学校選び

学校説明会や文化祭に子供と一緒に積極的に足を運び、子どもにも自分でどの学校に行きたいかを考えさせると良いです。我が家は子どもの行きたい学校と親が良いと思った学校が一致し、最終的にもご縁があってそちらの学校に入学させていただくのですが、それも11月受験が不合格になった中で親も子どもも一緒になって絶対にその学校に行きたいという強い意志を持てたことが最後の合格の大きな力になったのではないかと考えています。

## これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

中学受験は親の受験と言われますが、私が子どもの受験を経験した中でその言葉の意味することの私なりの結論は、初めて受験で子どもはその意味するところやどのように勉強すれば良いかが分かっていないので、親が良きガイド役になってサポートしてあげる、ときには一緒に取り組むということが必要になるのが中学受験で、それができたかが親の受験なのかと思います。一方で子どもはそれが分からないので反抗することもあると思いますが、初めてで分からないための反応なので、なるべく喧嘩せずに、寄り添いながら粘り強く取り組むことが重要だと思

います。我が家は夏休みも関西万博などにも行きましたし、リフレッシュも挟みながら子どものモチベーションを意識しました。受験は親にとってもストレスも溜まるかと思いますが、そこでの成長や学びは子どもだけでなく親にとっても大きいので、ぜひ楽しみながら頑張ってください。

# 豊島岡女子、広尾小石川、三田国際合格

## ■ 英語学習歴

海外滞在経験はなく、国内インター生でもない区立小生です。4年生までオールイングリッシュのアフタースクールに週5日通っていました。3年生後半で英検2級を取得。4年生2月から ena 国際部に入学し、受験英語へとシフト。6年生前半で準1級を取得しました。

## ■ 英語受験（ena 国際部）を決めたきっかけ

5・6年生という大切な時期を勉強せずに過ごすのは惜しいと感じ、受験を決めました。英語学習を中断したくないという希望が親子で一致し、4科ではなく英・国・算の3科受験に決め、帰国生を対象としている塾を探しました。

塾選びの第一条件は、バスケの練習日と重ならないこと。ほとんどの塾が土日の通塾を前提とする中、ena 国際部は振替やオンライン授業に柔軟に対応してくださったので、バスケとうまく両立できました。

## ■ 習い事との両立

地元のバスケチームで、5年生で副キャプテン、6年生でキャプテンを務めました。キャプテンに就任する際は、チームの監督に「受験とバスケを最後まで両立し、途中で辞めない」と約束しました。区の選抜選手に2年連続で選出され、選抜チームの強化練習も入り、受験直前期（12月～1月）まで大会に出場。ピアノも週1回のレッスンを継続しました。

平日は、学校から帰宅後、バスケや塾の時間までの1時間で ena の宿題（短時間ですがピアノも練習）を済ませ、帰宅後は夕食と入浴。夜は勉強をしたりテレビを見たりしながらリラックスする日もありました。睡眠時間は8～9時間確保するようにしていました。

週末は一日中練習や試合に取られるため、勉強時間は土日で合計3時間あればいいところだったと思います。5年生の間は、私が週間スケジュール帳を作り、締切を決めて伴走しました。6年生になる頃には自分でペースをつかみ、学習もスケジュール管理も自分でできるようになりました。その間に英検準1級も取得し、ena の模試の成績も安定していたと思います。

ただ、1週間のスケジュールは ena の宿題で手一杯で、それ以上の家庭学習はまったく取り組めない状況でした。その結果、受験直前まで志望校の過去問に着手できなかったのも、もっと早めに着手すべきだったと反省しています。

## ■ 日本の小学生が英語学習で苦労したこと、うまくいったこと

帰国生でもインター生でもない立場だったので、英語での勝負は難しいと感じました。その意味で、6年生前半で準1級を取得しておいたことは大きな強みとなりました。英語力を証明したうえで、国・算で勝負する形が現実的だったと感じています。

ena 国際部で Juken English と Pre-1 の授業を取り、毎週の宿題に取り組むだけで、家庭で特別な英検対策もせず、準1級に合格することができました。

## ■ 学校選びのポイント

将来の夢を踏まえて、医学部進学実績があり、英・国・算のいずれかで受験可能な都内の学校から選びました。

## ■ これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

小学生らしい健全な生活を大切にしつつ、無理のない範囲で受験させたい、という考えをベースにやってきました。子どもには、目的は“合格”ではなく、“しっかり勉強すること”とリマインドしていました。結果にこだわらないと私も自分自身に言い聞かせていたので、終始穏やかな受験生活が送れたと思います。

受験を理由に習い事をやめるご家庭もありますが、始める前から諦めてしまうのはもったいないと感じます。志望校合格だけでなく、習い事も最後まで継続したという成功体験は、子どものこれから先の困難を乗り越える力になると思います。

体育館から赤松先生に電話をして、「これから試合があるが、模試も大切で、どちらを優先すべきか」と相談したこともありました。その時は、本人が「模試」を選んだため、急遽体育館から模試を受けに帰りました。両立生活は、こうした選択の連続で、その都度「今、この状況で何を優先すべきか」を考える習慣が自然と身についたように思います。

## ■ 志望校合格の瞬間の気持ち

合格発表を見て、娘と抱き合って喜びました。高倍率を知っていた私は、全力を出し切ったとしても、最後は運もあると覚悟していました。それだけに、結果をつかんだ娘を誇りに思いました。

バスケットで疲れて帰宅した日も自ら机に向かっていた姿は、きっと一生忘れません。これからもしばらくバスケットの両立生活が続きますが、継続して頑張っていていけると信じています。

最後になりましたが、娘を信じ、最後まで温かい目で見守ってくださった ena 国際部の先生方に、心より感謝申し上げます。

# 市川合格

- 中学受験を決めたきっかけ

帰国生という同じバックグラウンドの生徒が集まる環境が良いと思いました。  
帰国生向けの英語の抽出し授業があること。

- 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと

日本語補習校はない地域で、日系の塾も少なかったです。主に算数の問題集など活用して自宅で勉強していました。

- 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

中学受験を本格的に決めたのは小6になってからでした。そのため、英検や TOEFL を夏休みに初めて受験したり、学校見学や学園祭などにも足を運んだり、とても忙しいスケジュールの中で準備を進めました。

算数は特訓算数で毎回テスト形式で勝負することが適度な緊張感があり楽しかったようで、勉強のモチベーションが上がっていました。時間内でテストを効率良く解き進める力も付いたと思います。大変な受験勉強の中で、楽しい好きと思える教科・授業があることが救いでした。

英語は1番得意科目でしたが、文法が弱かったです。特別講習に参加したり、先生から学習のアドバイスをいただき文法への苦手意識が変わりました。オススメしてもらった問題集に取り組み、試験までに文法を克服できました。

漢字が苦手な苦労しました。読書が好きで本を沢山読んでいたので、国語は漢字以外でなんとか点数が稼げていたように思います。広尾国語を受講したおかげで日本語作文をきちんと書けるようになりました。

全ての学びは、受験のためだけでなく、将来の学びを支える土台になったと感じています。

- 学校選びのポイント

英語の抽出し授業の有無や内容、学校の校風が子どもに合っているか。学祭で実際に在校生の様子を見たり、在校生と話したり触れ合うことが1番本人の決め手になったようです。

受験当日も学校により印象が様々だったようで、これも進学を決めるポイントになりました。(生徒がボランティアで試験監督のお手伝いをしていたなど)

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

学校によって出題傾向が大きく異なるため、早めに志望校を決めて、その学校に合った勉強に取り組むことをおすすめします。苦手分野の十分に克服した上で、直前講習で仕上げるのが理想的だと思います。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

合格をいただいた時は、嬉しくて胸がいっぱいになりました。本人も試験当日の話などを生き生きと家族に話していて、とても嬉しそうな様子でした。

# 開智日本橋、洗足、山脇合格

## 中学受験を決めたきっかけ

幼稚園から現地インター校に通学し、日本の学校や塾には通っておらず受験に対するイメージは湧いていませんでした。ただ、小学校高学年で帰国するなら中高一貫校へ進学させたいと考えて情報を収集、理科・社会の勉強は手が回らないと判断し三科目に絞って受験準備をするようになりました。

- ・ 現地での学習で苦労したこと、うまくいったこと
- ・ 算数: 低学年時は算盤塾。小4から通信教育を受講しましたが途中からついていけず、オンライン個別指導で ena のテキストを使った学習へ切り替え
- ・ 国語: 小学校の教科書をオンライン家庭教師で低学年から学習
- ・ 英語: インター校での日々の授業と自宅での英検・TOEFL 対策

ena の模試は小4から毎回受けて、特に算数の学習を進める上でのペースメーカーとしていました。当時校長の永田先生にはリモート面談の機会を何度もいただき学習相談に乗っていただきました。長期休暇中は ena の講習へ部分的に参加し（小5夏に東京校、小5冬はリモート）、良い刺激になったと思います。

- ・ 帰国後の学習で苦労したこと、うまくいったこと

小6の4月に日本へ戻り塾通いをスタート、一学期の間は日本の学校に慣れるのと塾の勉強とで本人は大変だったと思います。この時の ena への通塾は週二回（国語・算数）でしたが、学習習慣が足りず勉強の中身が伴っていたとは言えませんが、それでも親子で少しずつ受験モードに入っていくことができました。夏の講習や合宿に参加する中で、周りの子から良い影響を受ける形で本人も徐々に机に向かえるようになってきたと思います。

9月からは土曜に特訓国語・特訓算数のクラスも追加して演習量を増やし、テストで点数を取ることへの感覚を磨くとともに、スタミナをつけることができたと思います。ただ、この時期も国語クラスの漢字テストでは追試の常連でした。親としては当事者意識の欠如を感じることも多々ありましたが、本人は負荷が高まることに不満を抱えていたように思います。

その後、受験校を決め、過去問など学校別の対策を自宅で行うようになった頃からようやく受験が自分事になっていったようです。11月中に幸運にも二校から合格をいただいて、1月に受けるチャレンジ校の準備に12月～冬休みをあてることができるようになり、ena では個別指導で英語面接対策を繰り返し実施いただきました。

- ・ 学校選びのポイント

ena の模試結果と偏差値表もある程度参考にしながら以下のような基準で志望校の候補は挙げていましたが、実際の受験校は小6の9月以降に学校訪問をしながら家族の中で固めていきました。

- ・ 本人のレベルに合った英語の授業が受けられる
- ・ 学習の定着が弱い生徒へのフォローが手厚く、帰国生に対する面倒見が良い

- 国公立理系大学の受験にも対応できるカリキュラム
- 学校訪問や説明会などで感じる雰囲気や印象、学校の価値観
- 通学の時間や負荷

- これから受験する生徒さんの保護者様へのアドバイス

子おもの学習習慣と基礎学力、家族内での合意形成や作業分担で苦労もありましたが、ena 国際部の経験豊富な先生方には子どもだけでなく面談等を通して親も大変助けられました。

- 志望校合格の瞬間のお気持ち

頑張ったね、良かったね。